

3PLがコーディネートした 冷凍食品輸送における継続的な モーダルシフトの取り組み

2017年 12月 13日

オーシャントランス株式会社
日本通運株式会社
株式会社ニチレイフーズ
株式会社ロジスティクス・ネットワーク

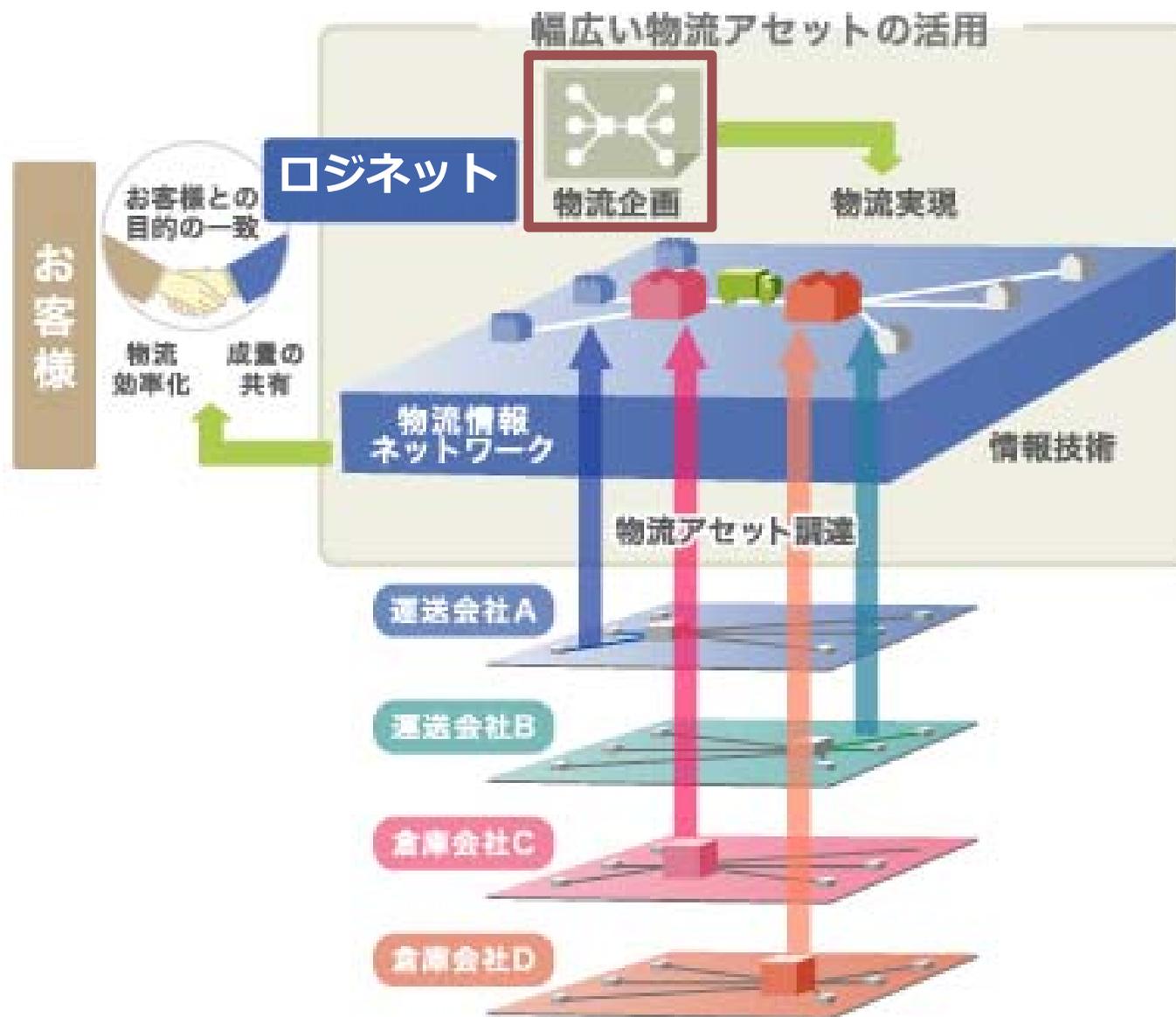


<アジェンダ>

1. ロジスティクス・ネットワーク（ロジネット）の役割
2. 取り組み内容
3. 今後の展望



ロジネット3PL事業の特徴（①3PL構築のアプローチ）





ロジネット3PL事業の特徴（②コーディネーター）

複数の荷主や物流企業が関与する取り組みにおいて、公平かつ客観的な第三者として企業間の利害調整をしながら、運営主体としてプロジェクトを推進します。

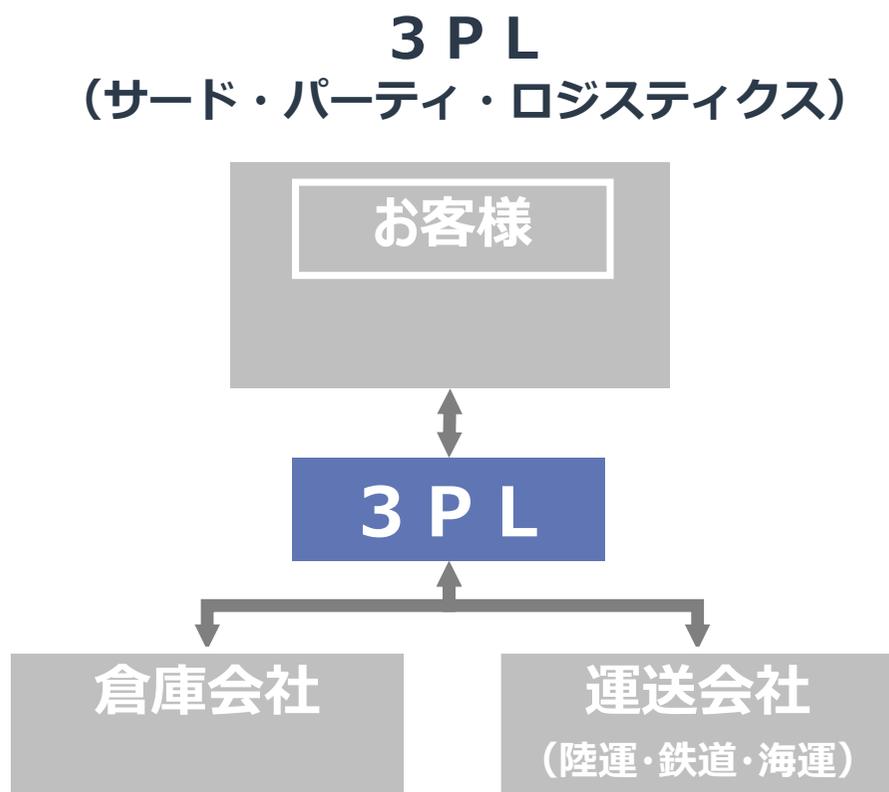


企業間をファシリテートする能力
ロジックをベースにした公平性
実現に向けて合意に導く交渉力

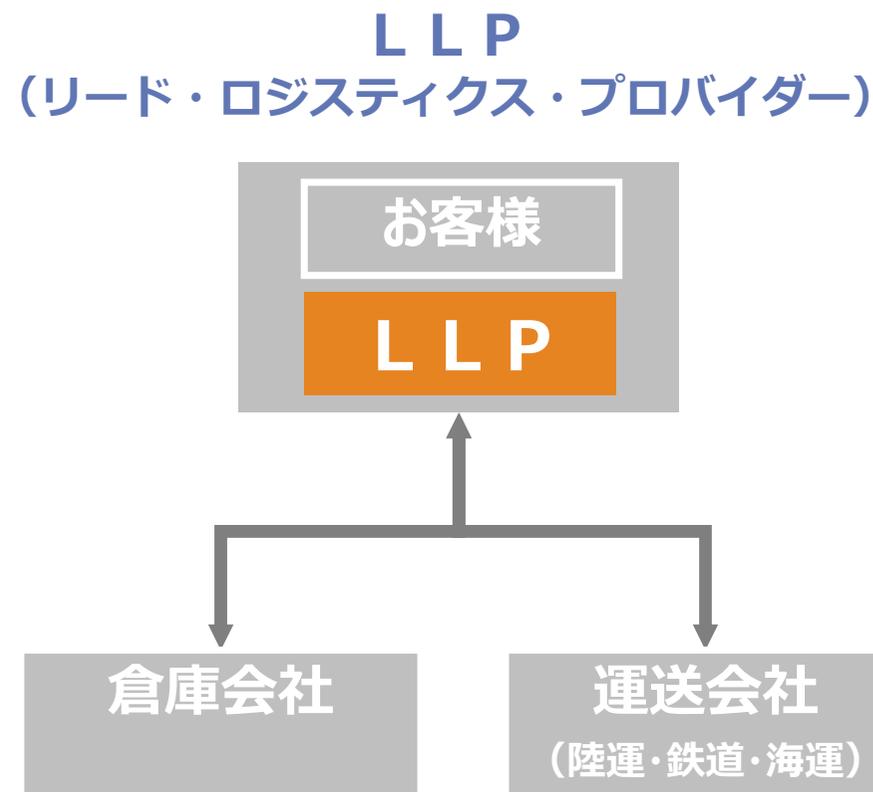


ロジネット3PL事業の特徴（③LLPへの深耕）

3PLという立ち位置からもう一步踏み込み、顧客企業に代わって物流管理の役割を果たすLLPという立場を担うことで、お客様の施策の更なる実効性と満足度の向上を実現しています。



- 立ち位置 : 顧客企業と物流会社の間に介在
- 主たる役割 : 相反する利害関係の調整
- 主たる機能 : 包括的物流管理者



- 立ち位置 : 顧客企業の中に存在
- 主たる役割 : 顧客企業の物流企画・管理を代行
- 主たる機能 : 物流企画・管理機能の補完



BPOサービス

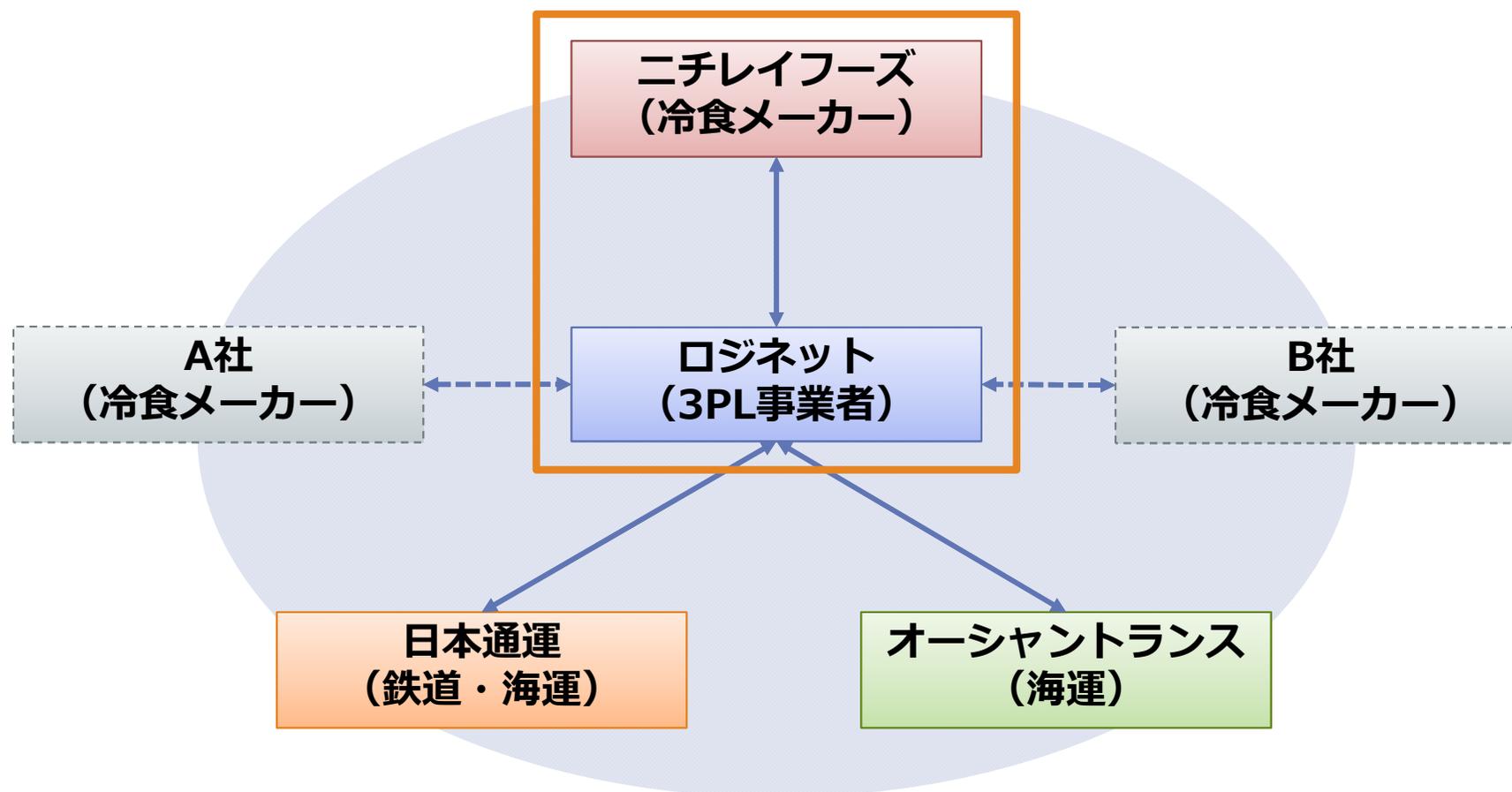
お客様物流部から委託された3PL事業者として、物流の企画・管理、配送デポへの在庫補充・輸送計画を運営すると共に、継続的な改善を推進します。





本取り組みの立ち位置

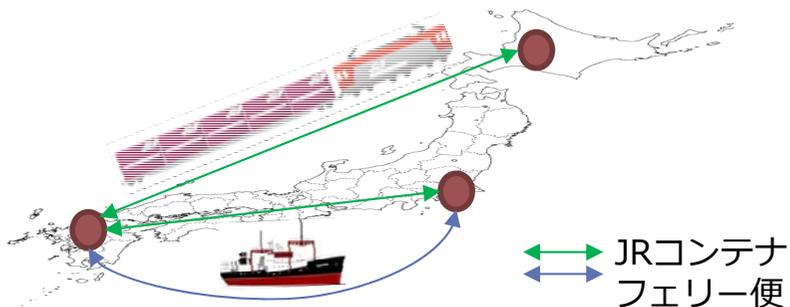
ニチレイフーズにおける物流管理の役割を果たすLLPという立場で、10年以上にわたりモダルシフトを推進してきました。JRコンテナ輸送は日本通運様、フェリー輸送はオーシャントランス様と日本通運様の多大なご協力を頂き、様々な取り組みを実現してまいりました。





2. 取り組み内容

(2003年~/2005年~)
① JRコンテナ & フェリー便による倉庫間在庫転送便のモーダルシフト



共同化

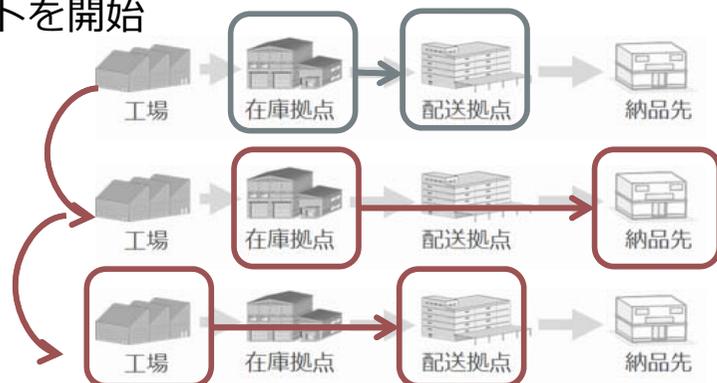
(2011年~)
② フェリー便による複数荷主の共同輸送を開始



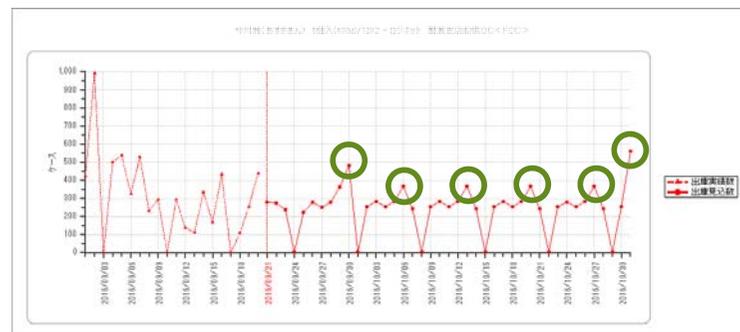
S
C
M

需要予測

(2006年~/2015年~)
③ 倉庫間移動の輸送範囲を超えたモーダルシフトを開始



(2004年~)
④ 需要予測と連動したJRコンテナ及びフェリー便の手配を開始





2. 取り組み内容

導入時

(2003年~/2005年~)

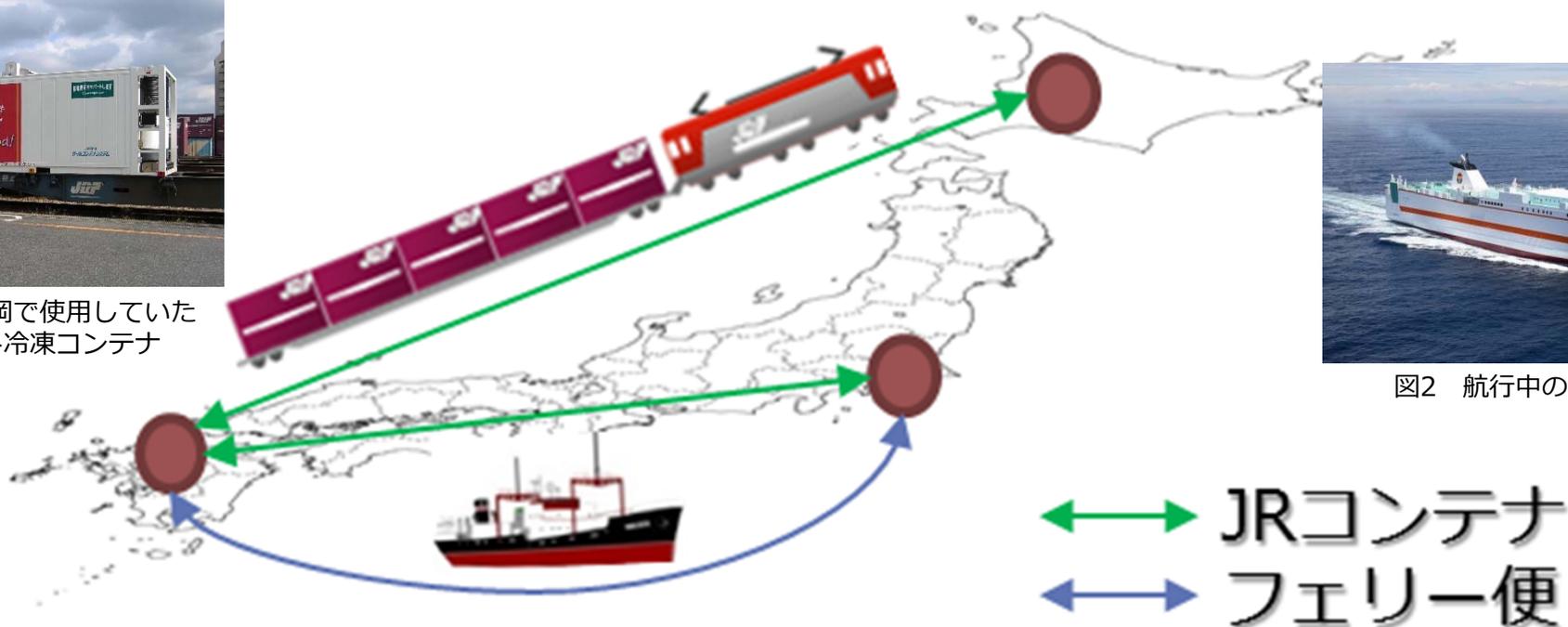
①JRコンテナ&フェリー便による倉庫間移動の モーダルシフト



図1 東京⇄福岡で使用していた
31フィート冷凍コンテナ



図2 航行中のフェリー





2. 取り組み内容

共同化

(2011年～)

②フェリー便による複数荷主の共同輸送を開始

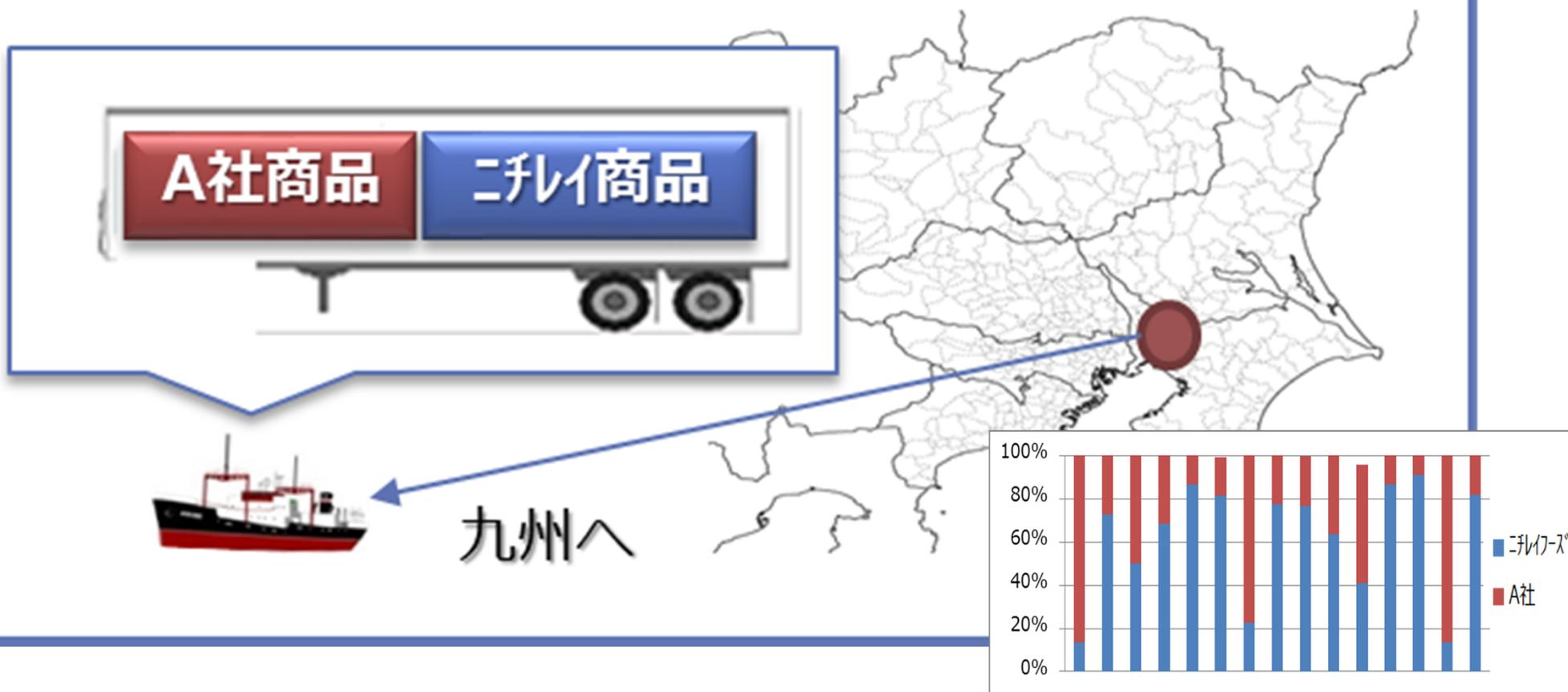


図3 2016年度における混載時の積載率推移 (2016/4/1～2016/7/31)



SCM

(2006年~/2015年~)

③ 倉庫間移動の範囲を超えた輸送ルートに導入

従来

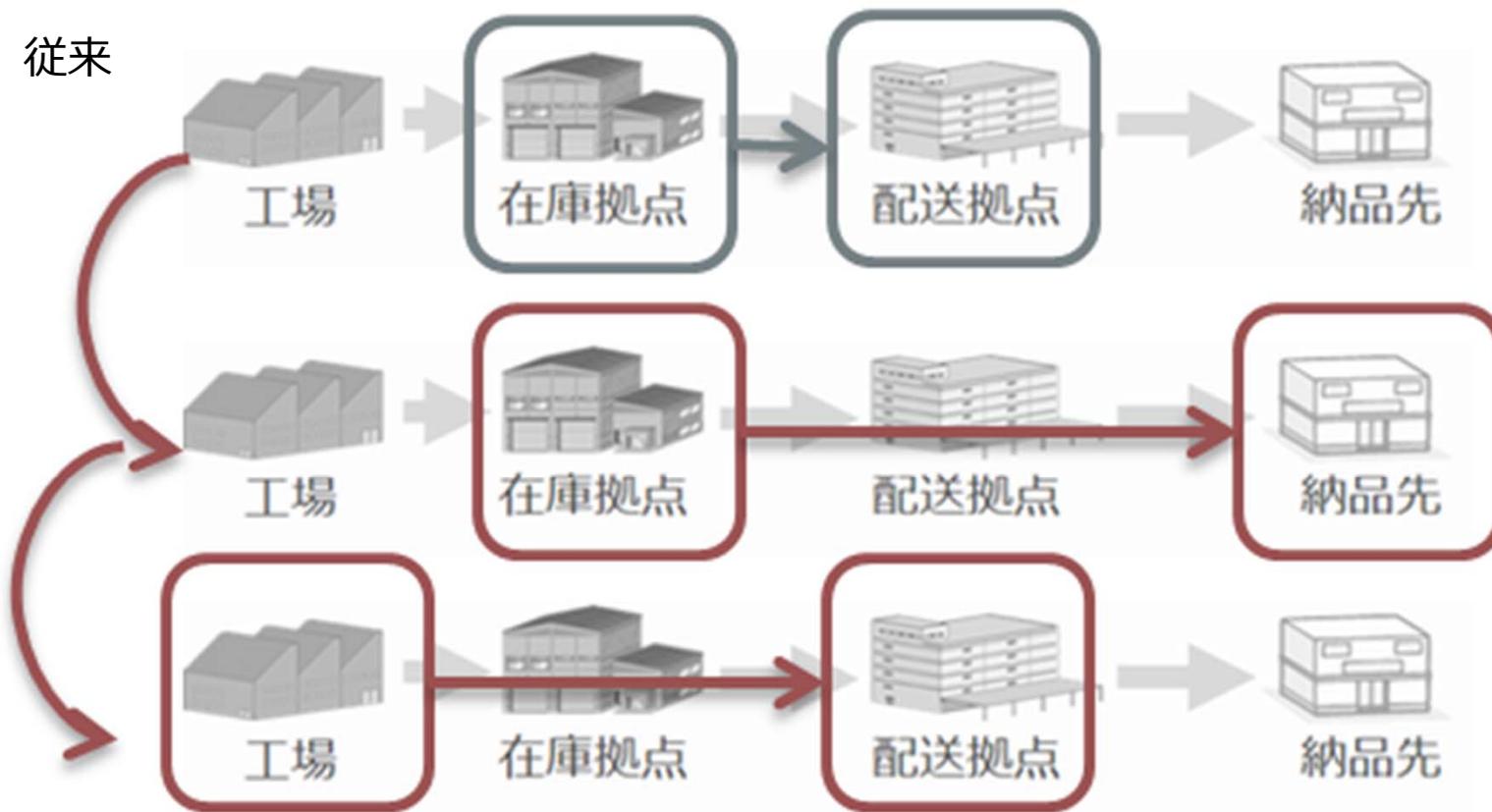


図4 得意先直送に活躍する
12フィート冷凍コンテナ



図5 工場倉庫からの出庫風景



2. 取り組み内容

需要予測

(2004年～)

④ 需要予測と連動したJRコンテナ及びフェリー便の手配を開始

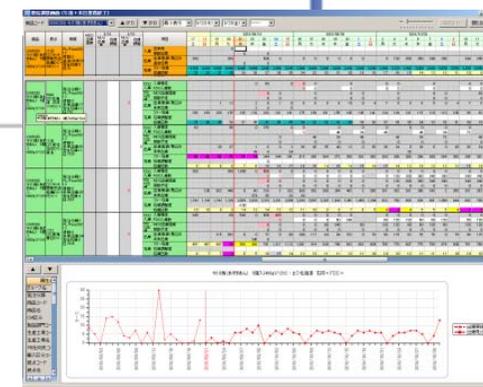
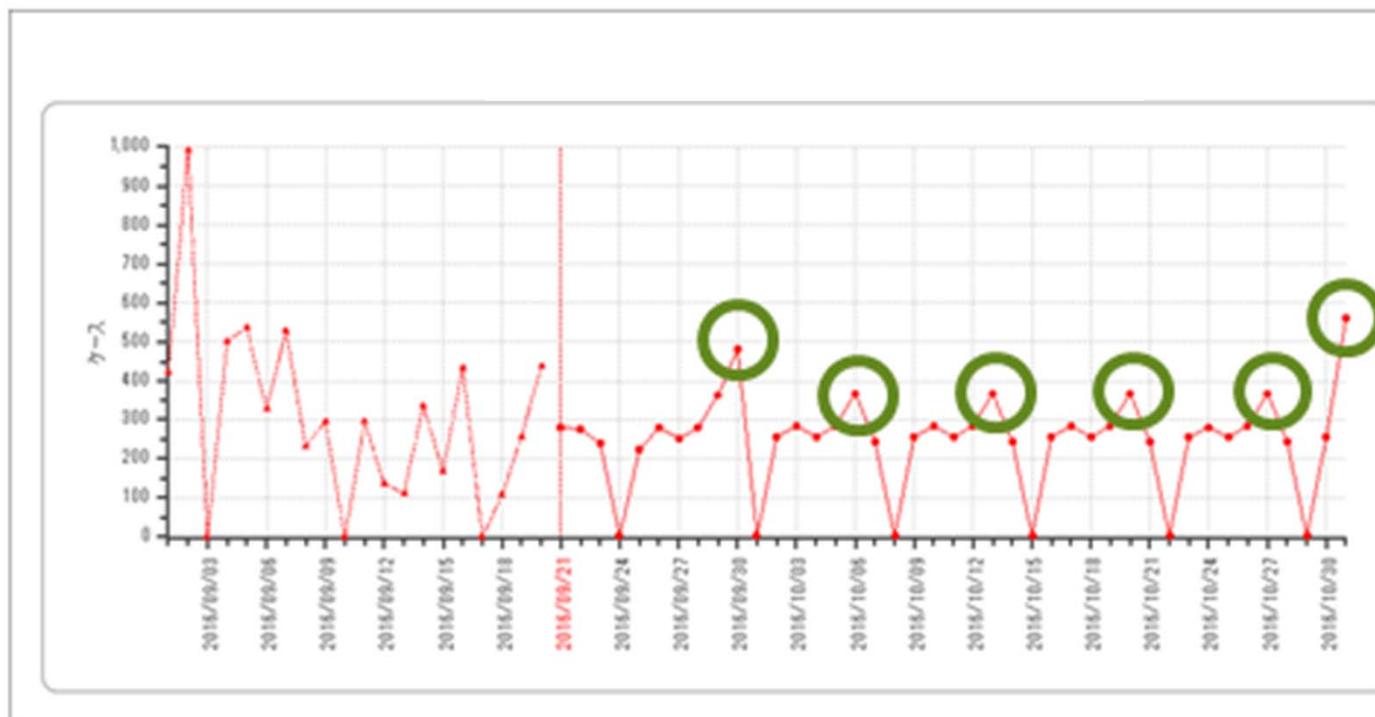


図6 需要予測・補充計画
システムの補充計画画面

--■ 出荷実績
--○ 出荷見込



図7 輸送計画システムの
簡易配車画面

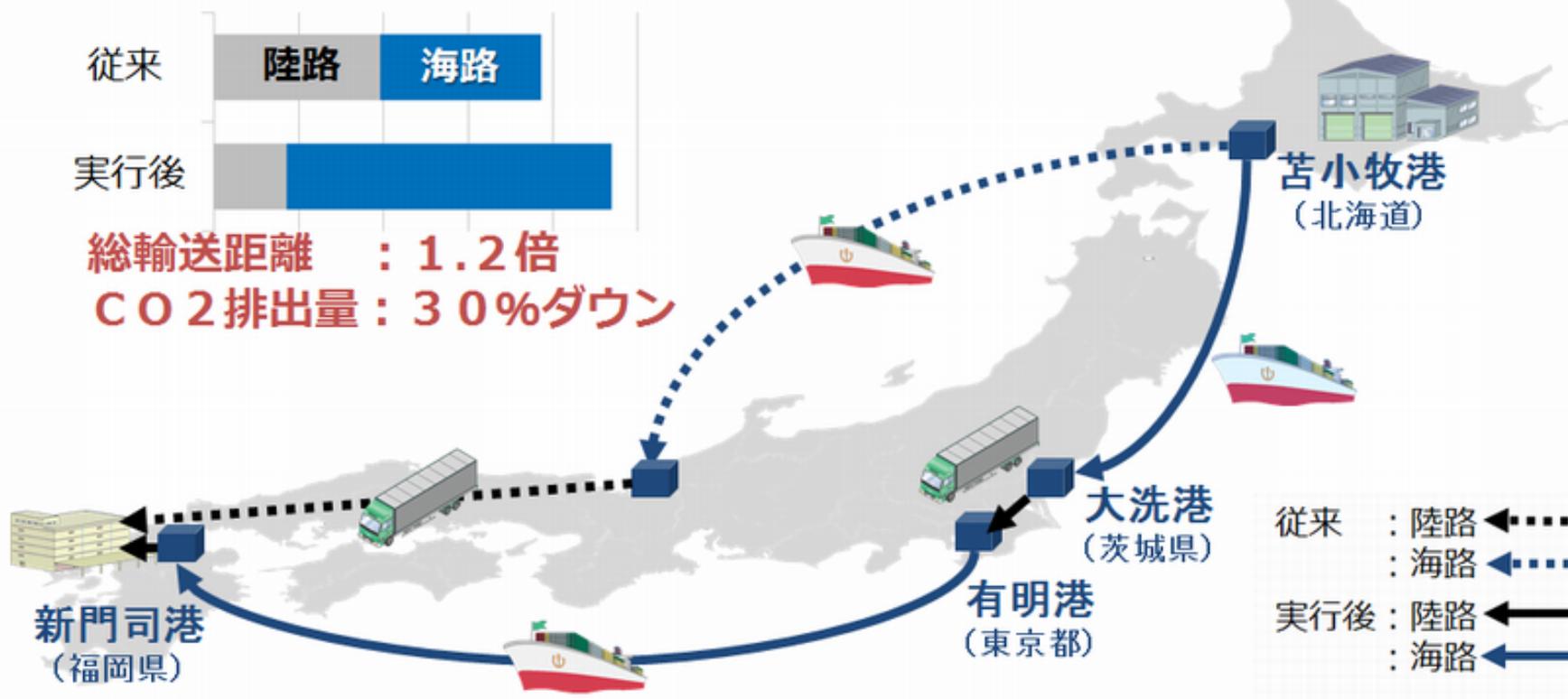


更なる改善

(2009年～)

⑤ コンテナリレー便

総輸送距離の比較





① 10トン車による無人航走の実現（フェリー便）

- トレーラーだけではなく、10トン車による無人航走の実現を目指します
 - ・ トレーラーに比べ軒先条件の制約が少なく融通が効きやすい
 - ・ 10トン車の取扱実績が多く、拡大を見込みやすい

② 他温度帯商品との組合せによるコンテナの往復利用の拡大（JRコンテナ・フェリー便）

- 冷凍食品だけでなく、常温食品や非食品との組み合わせによる往復利用を実現します
 - ・ 常温食品や非食品も検討することで往復利用の実現性が高まる

③ 外貨コンテナの活用（JRコンテナ便・フェリー便）

- 外貨搬入後の空コンテナを有効利用した輸送を検討しています
 - ・ 現在、冷凍コンテナの絶対数が少なく、外貨の空コンテナの利用により輸送量の拡大が見込める